ばってん

事務長会報第22号
平成19年10月１日
長崎県公立学校事務長会
長崎南高等学校内
〒850-0834　長崎市上小島4-13-1
電話　095-824-3134

ホテルセントヒル長崎
TEL　095-822-2251
長崎市筑後町４番10号

“これから誕生する事務長さん方へ”

会　長　吉　田　寛　治（長崎南高等学校）

会員の皆様には，ますますご清祥にて職務にご精励のことと存じます。

就任１か月後のメルマガ第１７号で，役員を代表してのごあいさつは述べさせていただきました。つい数年前までは，この時期の発刊号があいさつの役目を果たしていたことを思うと隔世の感があります。伝達手段としての電子メールの効用に感謝申し上げます。また，懸案事項の状況やその他の事務長会の動きにつきましても，メルマガを活用させていただき，時宜を逸しないよう広報部をとおして，情報提供を行っています。従って，ここでは，これまで発行された「ばってん」を再読して感じた事務長の基本的資質について，述べさせていただきたいと思います。

◆団塊の世代の退職◆

昭和２１年から２４年生まれの所謂「団塊の世代」の人たちの退職が昨年度から始まりました。この数は，昨年度の退職者と今年度の在職者を加えると，平成２１年度には総計４０名が退職することになります。一気に事務長の半数以上が若返ることになるわけです。昔は一番早い人で，３８歳から事務長になられた方もあり，早くから管理職の資質を鍛えられた先輩方が多かったようですが，近年は事務長への昇任も５０歳近辺になっているのが現状です。若返ることは大いに喜ばしい事なのですが，心配がないとはいえません。それは，財務会計事務，給与事務等のオンライン化に伴い，日常的な業務については事務の省力化が図られました。その反面，通常余り起きない事務処理が生じた場合，条例・規則・通知等を理解していないため，誤った処理を行うケースも見られるようになりました。また，文書作成をＯＡ機器で行うため，誤字脱字等も相変わらず多いような気もします。これは，「ＯＡ機器の落とし穴」という表題で，元事務長会会長で長崎南高校を最後に退職された松尾隆行事務長が，「ばってん」第５号に執筆されていました。最初は，条例・規則等の基礎・基本の習得に努めることが大事ではないでしょうか？また，公文書の書き方については，「１，６８０円の投資のススメ」という表題で，つい最近の「ばってん」２１号で，前事務長会事務局長の中村長崎東中・高校事務局長が書かれています。若い人は，是非購入し，勉強してみられたら如何でしょうか？

◆若い人に期待すること◆

基礎・基本を習得することは，物事の判断能力が備わったことになります。これを身につけたら次は，応用としての懸案事項の処理能力の育成です。懸案事項の処理に当たって大事なことは，「問題の本質に正面から対峙する当事者としての意識だ。」と，前事務長会会長の阿比留長崎西高校事務長は「ばってん」第１３号で語っておられます。つまり，事務長は，習得した基礎・基本を駆使しながら，第三者ではなく，責任者の立場から事を処理する能力を持たなければいけないのです。その能力とは，現状，問題点を分析し，対策を立てることができる能力のことです。

◆先輩方の言葉◆

以上の基本・基礎能力の育成，懸案事項処理能力を養っても，仕事はひとりではできません。周りの人の協力があって初めてできあがって行きます。また，出会う人から，直接的，間接的に学ぶ姿勢を持つことも大事かと思います。人を大事にすることが必要不可欠なのです。そして，健康第一なのです。このことについては，「ばってん」第２０号の「１７００字の言いたい放題」で，前事務長会副会長で諫早高校の村中事務長が先輩から指導を受けた一部として述べておられます。

このほかにも，多くの諸先輩方は，生活態度，組織論的な立場から，事務長の務め等を述べておられました。

以上，今まで諸先輩が「ばってん」の中で述べられていることを整理してみると，
事務長としての基本的資質は，
(1) 健康であること。
(2) 基礎・基本を習得すること。
(3) 応用力を兼ね備えること。
(4) 人間性を養うこと。
の４点を具備することが大事ではないかという結論に達しました。

そのためには，日々，継続的に自己を訓練し，これらの習得に努めていくことが大切なのではないでしょうか？

私自身が，これらの要件を具備しているかどうかの評価は，他の人に委ねることにして，残された時間を可能な限り，「若手の事務職員の育成」をとおして，「私らの後に続く事務長の育成」のお手伝いができればと考えています。

※　団塊の世代は，一般に昭和２２～２４年を指しますが，ここではあえて２１年生まれの方もカウントしています。

※　会報「ばつてん」のバックナンバーは，長崎県公立学校事務長会のホームページに掲載されています。

「閉校に寄せて」

長崎式見高等学校　中須賀　勇　治

長崎式見高校は昭和２６年４月、長崎西高校の分校として開校し、その後長崎北高校の分校を経て、式見地区に高等学校をぜひ作りたいという、地元の方々の熱意と努力が実り昭和５９年４月に分校から独立した高等学校となりました。

式見地区は、昭和３６年までは式見村（西彼杵郡）であったが、昭和３７年に長崎市に編入され、今日に至っています。

本校は、眼下に紺碧の角力灘を見下ろす高台にあり、海と山に囲まれた、すばらしい自然環境の中にあります。

私は、この４月に本校に赴任いたしましたが、それまでは本校が来年閉校だとの十分な認識がありませんでした。３年生だけの生徒数が４８名という小規模校であることなど、前任校と比べても学校全体の雰囲気がかなり違っており、これも閉校を控えている学校の状況なんだという思いをいたしております。

このような中、６月１７日（日）に生徒や教職員等が漕ぎ手となって式見地区ペーロン大会に参加しました。この大会が生徒たちにとっては本校での最後のペーロン大会となったわけですが、式見地区の夏の伝統行事であるこの大会に出場し、地域の人々と楽しくふれあうことができたことは、いい思い出になったのではないかと思います。また、７月１５日（日）に開催された体育祭にも多くの地域の皆さんが参加くださり、有り難く思っています。こういった行事を通じて、改めて長崎式見高校は地域とともに歩んできた学校なんだと感じました。

さて、閉校に向けての準備についてですが、現在、物品の整理を中心に行っているところです。

私は、かって「県立佐世保青少年の天地」の建設に携わった経験があり、建物の建設関係はもちろんのこと、物品の一つ一つに至るまで決めなければならないということで、施設を新たにつくることの大変さもわかっていますが、今回の閉校という事業も、要するに学校を「ゼロクリアー」することで、新設することに勝るとも劣らない労力だということを実感している今日このごろです。

事務長会総務部活動内容と現況

奈留高等学校　後　藤　和　雄

事務長会総務部は、日々何をやっているのかを紹介していただけるとの嬉しくも光栄なお仕事(^_^;)を広報部よりいただき現在、私の頭の中は錯乱状態であります。

その錯乱状態のなかで総務部の紹介をいたします。

平成１９年度の総務部構成は、総勢１３名で日々の活動を行っています。内容は、会議運営委員会・会計検討委員会・授業料検討委員会・電子記録作成委員会・三役名簿管理の以上４委員会と１事業から成り立っています。

会議運営委員会（委員長藤島事務長）は、正副会長会と理事会そして春秋総会の会場設定・設営や資料作成を行い、その他（これが一番多い）、突然舞い込む検討事項や会議の調整・資料作成に日々汲々と奮闘しています。

会計検討委員会（委員長高富事務長）は、予算・決算公私別の明確化に沿った予算編成のあり方に係る調査研究を行い、新方式の要求型予算執行の検証と成果を熟慮中です。

授業料検討委員会（委員長才津事務長）は、授業料に関する問題についての教育環境整備課との連絡調整を行い、先般も環境整備課との調整において、頭脳明晰な一端を垣間見ることができました。

電子記録作成委員会（委員長坊野事務長）は、過去の事務長会記録を電子文書化して保存する業務を、卓越したパソコンの知識と持ち前の実行力で膨大な資料と格闘の日々を送っています。

三役名簿管理（事業部長増山事務長）は、以前作成された三役名簿を、豊富な情報に基づき粛々と継承を行っています。前回は、１部５００円で販売いたしましたが、今後名簿の発行は、個人情報保護法との関わりもあり目下検討中です。

以上、総務部の現況と活動内容を悪文書で紹介させていただきました。

最後に一言で紹介すると総務部は、バタバタと時間に追われる部みたいです。m(_ _)m

事務長となって今思うこと

大村高等学校　川久保　芳　洋

「どっちがいいですか」

４月に大村高校に異動してから、よくこう聞かれます。それまでの本庁勤務と比べて、どっちが楽か、どっちがやりがいがあるか、どっちが居心地がいいか・・・といった意味の「いい」だと思うのですが、どっちもどっち、そう簡単に答えを出せるはずもなく、とりあえず「そうですね、どちらもなかなか・・・」などと答えています。

２２年ぶりに学校勤務となって５か月が過ぎ、ようやく学校の先生方の顔を区別できるようになりました。それに、全日制・定時制合わせて約千名の生徒たちの顔も少しずつですが違いが見えてきました。そして、霧が晴れるにつれて周りが見えてくるように、学校事務にもいろいろな課題があることもわかってきました。

私費会計や授業料滞納関係を始め学校内外の様々な課題は、これからさらに霧が晴れるにつれ、はっきりしてくるのではと思っています。同時に、どこにも、どんな時にも、やっぱり課題はあるものだと痛感しています。何かで「給料は仕事での苦労に対し支払われるもの」といったことを聞いたことがありますが、課題があるからこそ仕事をする意味や価値があるのかもしれません。

異動が決まった時、尊敬する先輩事務長さんから二つのアドバイスをいただきました。

ひとつは、「判断基準は、生徒のためにどうなのか、というところに置く」、もうひとつは「教科指導、生徒指導以外は事務室の担当、という気概で臨む」というものでした。

よく分からないからこそ見えることがある、という感性を維持しつつ、これまでのように人とのつながりを大切にしながら、このアドバイスを胸に事に当たろうと思っています。

どっちが「いい」のか、この結論は出ませんが、事務室の窓から見えるたくさんの緑や放課後どこからともなく聞こえてくるコーラス部の歌声など、心の休まることが増えたことを感じながら、容赦なく押し寄せてくる書類に印鑑を振り下ろしている毎日です。

会員漫筆

『私の宝物』

壱岐高等学校　岡　田　高　明

○一つ目は長島夏子さんのインターハイでの快挙です。

長島夏子さんは、壱岐高校３年時の平成１４年度全国高校総合体育大会女子１００Ｍで１１秒８５のタイムで優勝しました。長崎県短距離史上初の快挙です。本県高校女子初の１１秒台を出した彼女は、その年の秋季国体１００Ｍでも優勝しています。

中学時代は陸上部がなくソフトテニス部に所属し、壱岐高校入学後から本格的に陸上を始め、２年数か月で全国の頂点に立ったのです。良き指導者に出会った彼女は幸せですし、素質を見いだし開花させた奥浦教諭も指導者冥利に尽きることでしょう。

インターハイ１００Ｍの決勝メンバーは、中学生時代からの馴染みの顔ぶれだったことでしょう。そこに、名前も聞いたこともない、島から来た彼女が割って入り、優勝までしたのですから、私たちにとっては胸のすく思いでした。

彼女の快挙は、私たち離島の人間に希望を与えてくれました。これからは、離島には人材がいない・島流しだ等と、侮られることもありません。出会いの大切さは勿論ですが、どんな離島・郡部にも磨けば光る素材は居るということを教えてくれました。事務室からですが、彼女の３年間の成長を応援できる機会に恵まれたことに感謝しています。

○二つ目は生徒からの寄せ書です。

今年３月平戸高校を離任する際に部活動の生徒たちが持ってきてくれたものです。

休日には労働力として頼りにされ、家計の都合で進学を断念している生徒。新聞配達で学費や部費を捻出している生徒。草刈りをすると道具を持って手伝いに来る生徒。「人の価値は学力・学歴では決まらない。」ということを教えてくれました。格差社会が進む中、進学競争とは無縁の世界で懸命に頑張っている生徒たち。私たち職員には励ますことしかできませんでした。ただ、「頑張れ」「頑張れ」と。

離任式の日に部活動の生徒達があいさつに来ました。顧問の先生の指導でしょうが、予期せぬ出来事に胸が一杯になりました。異動の度に先生方が生徒から色紙や花束をもらっているのを見ていましたが、まさか自分が寄せ書をもらうとは。心から感謝した次第です。

学校の一員であるという実感、校内の殆どの生徒の顔や保護者の顔も分かるという感覚は、大規模校では味わえないものでしょう。皆様も是非小規模校を体験されてみませんか。一度味わうと病み付きになること請合いです。

平戸では、掛け替えのない保護者の方々との出会いもありましたが、それは又の機会にお話させていただければと思います。

ウチのここがすばらしい

『日本で外国に一番近い高校』

上対馬高等学校　浅　田　義　幸

上対馬は韓国まで約５０km、博多まで約１３０kmに位置し、晴れた秋の日には対岸の韓国が望めます。

対馬の人口は現在約３８，０００人。古事記や日本書紀にその名を記され、古くから大陸の中継地として歴史・文化の交流が盛んでした。現在でも釜山から年間約４０，０００人の観光客がやってきます。島内の道路標識は上から順にハングル語、漢字、英語と併記され、ひらがなのない独特の標識となって、はじめて訪れた人はすぐには判読できません。

本校は比田勝港から約３km入った山間の国道３８２号線沿いにあり、上対馬の拠点高校として対馬の半分近くにおよぶ通学区から、約１時間半かけて通学する生徒もいます。

校訓は「誠」、自彊・自律・自照を三綱とし、偽りのない心で自分を省み自ら励み努め、自主・自律の精神を培うことで、地域に信頼され、開かれた特色ある学校づくりを目指しています。また毎月「生命の日」を設け、生命尊重と豊かな人間性を培うための取り組みをしています。夏には「舟グロー」とよばれる複数の魯を用いた船で地域の保存会の指導を仰ぎながら、学校をあげた「舟グロー大会」を実施しています。秋には『日本で外国に一番近い高校』として韓国への修学旅行や釜山管楽祭への参加など活発に交流を行っています。

対馬の特産といえばシイタケ、サザエ、ヤマネコ（焼酎？動物？）。植物では《なんじゃもんじゃの木・海照らし・なたおれ》などの呼び名がある「ひとつばたご」が有名で、校舎や運動場の周辺では５月になると一面白い花が咲きみだれています。上対馬は落葉樹主体、下対馬は常緑樹主体で冬にはすべての山々が落葉し、一面ごつごつした岩肌がみえる荒涼とした風景が広がりますが、３月にはゲンカイツツジが咲き、４月には「あ！」という間に山一面新緑に包まれます。

随　想

原点との出逢い

宇久高等学校長　辻　尾　　修

「宇久」は、五島列島の最北端に位置する離島で、佐世保港から高速船で１時間２０分ほどの所にあります。平成１８年３月末の市町村合併により、北松浦郡宇久町から、佐世保市に編入しました。人口は、３千人強。浜木綿や浜昼顔などの海浜植物を初め、マリンブルーの海など美しい自然と温かい人情が自慢の“しま”です。

平成１７年４月着任。その時すでに宇久地区では、奈留・小値賀地区と同じく連携型の「中高一貫教育」に取り組んでいました。そして「中高一貫教育」の何たるかもまだ分っていない中で「小中高一貫教育」の研究指定を受けました。以来、２年間の準備期間を経て本年度からは、内閣府から教育特区の認定を受け「小中高一貫教育」（試行）に取り組んでいます。２０年度から本格実施の運びですが、教育に“試し”は許されないことですから、本年度から「本格実施」と捉えて地区挙げて取り組んでいます。

宇久地区で取り組んでいる「小中高一貫教育」は、小学校２校・中学校１校・高校１校が、それぞれ現在の校舎をそのまま使いながら連携して行う一貫教育です。主な内容は、①小中高の１２年間を見とおした教科指導②小学校３年生からの「英語科」の導入③「特別活動」や「総合的な学習の時間」等を再編成しての「宇久・実践」の新設等です。③の中で、中高（体育大会・ロードレース等）や小中高（歓迎遠足・海岸清掃等）の合同行事なども行います。

従来は、それぞれの学校単位で授業も行事も会議も行ってきました。それを、四つの学校の先生方が、互いの枠を超えて児童生徒を理解し、気持ちを一つにして１２年間をとおした教育に取り組むというのは、実際には大変な工夫と努力が必要です。教職員全体の会議を開いて共通理解を図る。教科や領域単位の部会については、随時実施。そして、互いの授業を観て研究をする。１２年間を見とおした教育課程を編成する。相互乗り入れ授業や行事の合同実施。年に何回かは懇親会もということで、先生方の気持ちもうち解け、現在は、十分軌道に乗りつつあると感じています。もちろん、改善点や今後強化しなければいけない点については検討をし、２０年度以降の本格実施に活かしていくことになります。小中高合同の「事務部会」も設けています。現在のところは主として各種予算の編成や執行について取り組んでいます。しかし、少子化が更に進み、将来的に一つの校舎で一貫教育をということにでもなると、施設・設備等の問題についても検討していくことになろうかと思われます。

余談ですが、今後少子化・過疎化が更に進んでいくと、このパターンの一貫教育は宇久・奈留・小値賀地区だけのものではないようになってくるかも知れません。県内の他の地区、あるいは、日本のあちこちでこのような取り組みの必要性が出てくることも十分考えられます。

ともあれ、１２年間を見とおした上での「一貫教育」という考え方は、教育の原点であって、一貫教育校でなくてもどこの小・中学校、高校にあっても普段から十分意識しておく必要があるのではないかと思います。教科指導についても中学校や小学校での教育を踏まえた高校での教科指導でなければならない。また、高校数学の到達点から逆算して小学校算数のあり方を考えるというのは大事なことです。生活指導や進路指導についても同様で、互いに責任のなすり合いをするようでは、決していい教育はできません。１２年間を見とおした上で、小中高それぞれが、今なすべき教育に全力を投入するという姿勢が大事です。そして、更にこの考え方を広げていけば、家庭から幼・小・中・高・大学・地域までを貫く教育ができてこそ、真に理想的な教育の姿だと言えると思います。

私にとって「一貫教育」との出逢いは、教育の原点とは何かについて考えさせてくれるいい機会であったと思っています。

編集後記

本年度、広報部はそれぞれ２人組により「メルマガ担当」、「ホームページ担当」そして事務長会新聞「ばってん担当」の３部構成になっております。メルマガに関しては、事務長会・事務職員協会及び県当局からの時宜にあった情報を精力的に発行し、会員の皆様に喜んでいただいております。ホームページに関しましては、１１月の正式公開を目指し、今、作業中です。学校紹介のページには各学校のHPとリンクを張ると同時に各学校の校章を載せております。住所・電話・ファックス一覧も載せておりますので、電話等をされる場合は職員録をみるよりはるかに早くて便利だと思います。また、会員専用ページにはパスワードを設定しました。事務長にとって大変役に立つ通知通達集等も掲載しております。学校紹介ページは、各事務長から提出いただいた原稿により、より充実した楽しいものにしてゆきたいと考えておりますので会員の皆様のご協力をお願いします。HPのアドレスは以下のとおりですのでご覧ください。

http://island.geocities.jp/nskjmtk/

そして今回発行の「ばってん」ですが、例年原稿依頼で大変苦労しているところですが、本年度は、担当の女性事務長の人徳でしょうか原稿依頼もスムーズにいったと聞いております。その随想のなかで、今後「小中高一貫教育」は、離島地区だけの問題ではなく、日本のあちこちで起こり得ることで、どこの小・中・高校にあっても普段から、各種の予算の編成や執行並びに施設設備等の問題について十分意識しておく必要があると指摘されています。少子化が急速に進んでいる我が国では、２００６年の１億２，７７０万人をピークに人口は減少に転じ、２０５０年には約１億人にまで減少することが見込まれています。大変な世の中になりそうです。

末筆になりますが、「ばってん２２号」に原稿を寄せていただいた方々に心よりお礼を申し上げます。なお、恥ずかしながら余白をお借りしてものまね挿絵のばってんデビューをさせていただきました。リラックスした雰囲気が少しでも伝われば幸です。

Ｙ．Ｔ